

# 広域観光交流促進調査特別委員会行政視察報告

広域観光交流促進調査特別委員長 山際 務

【視察日程】令和6年11月20日（水）～11月22日（金）

【視察委員】山際務委員長、内山幸紀副委員長、平松洋一委員、伊藤健太郎委員、土田真清委員、豊島真委員、小林弘樹委員、飯塚孝子委員、佐藤誠委員、宇野耕哉委員、小柳聡委員、小泉仲之委員

【視察地】島根県出雲市、鳥取県境港市、山陰観光連盟（鳥取県米子市）、山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター（鳥取市）

【調査事項】島根県出雲市：日本遺産認定による観光面での効果について  
鳥取県境港市：水木しげるロードと記念館リニューアル後の効果について  
山陰観光連盟（鳥取県米子市）：事業内容と広域観光に対する取組について  
山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター（鳥取市）：鳥取砂丘の観光面における取組と今後の課題について

## ○日本遺産認定による観光面での効果について【島根県出雲市】



### 1 出雲市の概要

出雲市は、島根県の東部に位置し、北は国引き神話で知られる島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されている。平成17年3月に2市4町が合併して新市が誕生し、平成23年10月にさらに1町が合併して現在の市域（約624平方キロメートル）となっている。

人口は約17万3,000人で、県内では松江市に次ぐ人口規模である。出雲市は人口17万人キープを目標に様々な施策に取り組んでおり、近年はこの水準で人口が推移している。

産業面においては、工業分野では（株）村田製作所や富士通（株）などの企業の立地によって工業生産額は県内の40%以上、農業分野でも出雲平野を中心に水稲や麦、ぶどうなどの生産が盛んで農業生産額は県内の約20%を占めている。このほか商業販売額も県内の25%を占めるなど、各産業のバランスが取れた都市となっている。

観光面においては、出雲大社などの観光資源を中心に全国各地から多くの観光客が訪れ、観光入込客数は、コロナ禍で一旦は減少したものの、現在は年間約1,200万人であり、コロナ禍前の状況に戻ってきている。

令和4年度には、神々の神話になぞらえ「出雲新話」と銘打った新たな総合計画を策定。出雲市の強みを「出雲力」と表現し、「夢☆未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち」を将来像に各種施策に取り組んでいる。

## 2 日本遺産

日本の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根差した伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていくことが必要である。

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援している。

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財（文化遺産）の価値づけを行い、個々の遺産を「点」として指定・保護を担保することを目的とするものであり、地域の魅力が十分に伝わらないとともに、観光素材としても、そこだけを見て終わる通過型になりやすい。一方で日本遺産は、既存の文化財の価値づけや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する文化財をパッケージ化した「面」として活用・発信することで地域のブランド化・アイデンティティーの再確認を促進するもので、地域の活性化を図ることを目的としている点に違いがある。これは言わば、文化財版の「クールジャパン戦略」とも言うべき施策である。

## 3 出雲市における日本遺産認定までの経緯

文化庁は、2020 東京オリンピック・パラリンピックまでに、全国から100件程度を認定する計画の下、平成27年度に「日本遺産」を創設した。

出雲市では、市長の肝煎りで平成28年、文化財課を中心に日本遺産の申請に向けて検討を開始した。約半年の間に8つのテーマ案が検討されたが、そのいずれも日本遺産の目的（地域活性化）にそぐわず、同年12月に「日が沈む最果て出雲の日御碕～夕日にまつわる間の世界観～」にテーマが決定し、翌平成29年2月に「日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～」に再テーマ化して文化庁に申請を行った。

最終的にこのテーマとなった理由として、①興味深さ：「美しい夕日」という誰をも引きつけるテーマ設定、②斬新さ：地元でもあまり観光資源として注目されていなかった素材、そして、これまでの日本遺産にないカテゴリー、③訴求力：外国人にも分かりやすく、イメージしやすい「文化遺産」、④希少性：夕日の名所は多いが「祈りの歴史」がたどれるのは出雲だけ、⑤地域性：出雲の地域性を全面に打ち出したストーリーが上げられ、「日が沈む聖地出雲」はPRがしやすく、様々なソフト事業が展開可能であり、広大なビューポイントが利点となるなどそのポテンシャルは高いと判断された。

「日が沈む聖地出雲」は、23の文化財で構成され、①神が創り出した海岸線、②稲佐の浜の夕日

と「天日隅宮（あめのひすみのみや）」、③日御碕の夕日と「日沉宮（ひしずみのみや）」、④日が沈む聖地、の出雲神話に基づく4つのストーリーで組み立てられている。

そして、平成29年4月、文化庁から日本遺産として認定を受けることとなった。翌5月には文化財課・インバウンド推進課を事務局とし、出雲観光協会、出雲商工会、神門通りおもてなし協同組合、日御碕民宿組合、日御碕土産物品組合、日御碕コミュニティセンターで構成する出雲市日本遺産推進協議会が設立され、認定されたストーリーを広く国内外に発信し、多くの観光客から訪れてもらうため、日本遺産魅力発信事業を推進するための体制を整えた。

#### 4 構成文化財の連携策

【平成29年～令和元年：文化庁（補助事業）による重点支援期間】

##### ①情報発信

◇ホームページ・パンフレット・PR映像作成、デジタルマーケティング

##### ②人材育成

◇ガイド養成、子ども観光大使（小・中学生）

##### ③普及啓発

◇市民意識向上（出雲塾、観光ガイドセミナー、接客従業員セミナー）

◇フォトコンテスト（インスタグラムで募集）

◇イベント開催（シンポジウム・モニターツアー・コンサート等）

◇PR（県外イベントへ参加・PRグッズ・ノベルティー作成）

##### ④調査研究

◇観光誘客動態調査

##### ⑤ハード整備

◇拠点整備（日御碕ビジターセンター）

◇誘導サイン（駅周辺PR看板・構成文化財説明版・道標）

【令和2年～令和4年：自立・自走期間（市単事業）】

##### ①観光誘客事業

◇出雲神楽定期公演、夕日鑑賞オープントップバスツアー

##### ②文化財魅力磨き上げ事業

◇市民向け講座「出雲塾」

・講座付きツアー、ワークショップ付き講座

◇文化財コンテンツの開発実証運行

・親子向け謎解きクイズラリー

##### ③日本遺産活用事業

◇市民向け講座「出雲塾」

・講座付きツアー、ワークショップ付き講座

◇文化財コンテンツの開発実証運行

・親子向け謎解きクイズラリー、子ども観光大使

・人気アニメとのコラボレーション

(日が沈む聖地出雲/シャーマンキングスタンプラリー)

・リーフレット作成(構成文化財中心)

④情報発信・人材育成事業

◇ガイド養成、子ども観光大使(小・中学生)

◇ホームページ(日本語版・外国語版)運用管理

◇日本遺産ガイドブックの改訂

【商品開発】 地元企業が「日が沈む聖地出雲」を生かしてバラパン、ワイン、大社湾クルージングを商品化

【地域連携】 稲佐の浜夕刻篝火舞(稲佐の浜・大土地神楽)

5 夕日を生かした観光政策

出雲市の令和5年度の観光入込客数は約1,200万人であり、コロナ禍前の状況に戻ってきている。また宿泊者数は約84万人と過去最高を記録した。しかしながら、出雲大社などの通過型観光が主流で、観光客の滞在時間を延ばすことが課題となっている。

①ふるさと納税返礼品ツアーの造成

「日が沈む聖地出雲」は美しい夕日を生かして周遊を促すストーリーであり、周遊滞在型観光につながる取組を行っている。今年度は日本遺産の構成文化財と夕日をガイドと巡るツアーをふるさと納税返礼品に登録。高額な返礼品により注目を集めることも目的である。

「神話を感じながら夕日を望む 出雲旅」46万4,000円～60万8,000円

「夕日の聖地を贅沢に過ごす旅」37万9,000円～66万7,000円

②日本博関連プロジェクト「日本遺産～日が沈む聖地出雲 夕日VR」の公開

悪天候でも「日が沈む聖地出雲」の美しい夕景をスマートフォンやタブレット端末で類似体験することが可能

③出雲観光協会ホームページに夕日指数を掲載

④出雲観光協会で旅行商品を販売

日本遺産「日が沈む聖地出雲」の物語と「国引き神話」の物語。そして日本海の夕日を堪能するプラン(食事・ガイド付き)

出雲大社→稲佐の浜→菌の長浜・サンセットロード

6. 石見銀山との関係性

世界遺産「石見銀山」が位置する大田市には、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史～"縄文の森" 銀の山」と出逢える旅へ～」もあるが、出雲市と大田市はこれまで観光面での連携はなかった。現在はメディアや旅行社の招請受入れにおいて、大田市との連携を模索中である。また、わおマップ(栄光社(株))が令和3年度版から日本遺産をテーマに改編が進み、編集社や大田市の希望により、令和3年～6年版は「出雲・大田版」として製作している。

山陰道の開通区間延長により、出雲⇄浜田方面への交通が容易になり、出雲大社と石見銀山の両方を日帰りコースで周遊することも可能となった。その他関連文化財として鉾山、たたら製鉄、埋没林

などがあるため、今後は連携を深めていく方向である。

## 7 今後の課題

日本遺産認定の基となる出雲市歴史文化基本構想は令和5年度に認定継続された。このうち、新たな地域基本計画の中で、日本遺産の取組を行う組織の自立、自走、構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組を課題として上げている。市民向け、対外的な情報発信の手法に力を入れ、PRを推進していくとのことである。

## 8 所見

我が国の文化行政はこれまで、文化財保護法に基づき一定の規制の下、言わば「点」として保存、活用を図ることを中心に展開されてきた。

一方で、地域における文化財のより効率的な保存、活用を図るためには、それらを一定のストーリーの下で捉えることが有効であることから、文化庁においては、市町村による「歴史文化基本構想」の策定を推奨している。現在は、全国の120を超える市町村がこの構想を策定済みである（県内では十日町市、妙高市、上越市、佐渡市が策定済み）。

また近年、世界文化遺産への登録を通じた取組などにも見られるように、地域に所在する文化財について、まちづくりの核としての可能性が見いだされ、これらを積極的に活用することによって地域を活性化する気運の高まりが見られる。

我が国には有形、無形の優れた文化財が各地に数多く存在しており、文化財を核に当該地域の産業振興、観光振興や人材育成等とも連動して一体的なまちづくり政策を進めることが、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなる。

出雲市においては、出雲大社を中心に年間約1,200万人の観光客が訪れているが、その形態は通過型観光が主流であり、滞在型観光へとシフトさせることが長年の課題であった。

文化庁による「日本遺産」事業が創設されると、市長の肝煎りで登録に向けた検討が開始され、日本海に沈む夕日と神話、23の文化財とを組み合わせた新たな4つのストーリーが構築された。夕日を鑑賞する時間帯は出雲市の滞在時間を増やすことにつながり、宿泊のきっかけづくりともなる。これらの取組が功を奏し、これまで観光客があまり訪れなかった地域を周遊する観光客が増え、令和5年度の宿泊客数も84万人と過去最高を記録した。

これらの取組は、市役所の文化財課と観光部門のインバウンド推進課が中心となり、関係団体と地域が連携する形で行われている。特に、文化財課は、日本遺産の登録に係るストーリーを構築するプロデュース機能と地域と関係団体などを結ぶコーディネート機能を併せ持っており、文化財の保存から活用に向けて大車輪の活躍ぶりである。

本市においては、日本遺産#039「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」、#026「「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」の構成自治体となっている。しかしながら、歴史文化基本構想の策定はされておらず、本市独自の日本遺産の登録は残念ながらない。本市には、それぞれの地域に特色ある歴史と文化があり、国指定文化財をはじめ、県指定、市指定の数多くの有形・無形文化財が存在する。これらをストーリーでつなぐことによって、多

種多様な周遊ルートを構築することが可能である。市役所の歴史文化部門と観光部門、区役所が連携を図り、歴史と文化のまちづくり政策を総合的に推進していく体制づくりが必要と感じた。

## ○水木しげるロードと記念館リニューアル後の効果について【鳥取県境港市】



### 1 境港市の概要

○市制施行：昭和 31 年 4 月 1 日

○人口：3 万 2,525 人（令和 6 年 3 月 31 日現在）

○面積：29.11 平方メートル（令和 6 年 4 月 1 日現在）

○地勢：鳥取県の北西部、弓浜半島の北端に位置し、三方が海に開けた「港町」

○特徴：「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」を推進

・「3つの港」→①境漁港→特定第三種漁港：水産業の振興のために特に重要であると定められた漁港。全国に 13 港ある。平成 4 年から 5 年連続で漁獲水揚量が全国第 1 位

②境港→環日本海定期貨客船（東海、ウラジオストック）、定期コンテナ船（釜山、上海）が接続（社会基盤港湾→クルーズ船受入れ実績 31 回）

③米子国際空港（愛称：米子鬼太郎空港）

→山陰唯一の国際線（ソウル、香港、上海）が接続

### 2 水木しげるロード

#### (1) 概要

・鳥取県境港市の観光対応型商店街で、境港駅から本町アーケードまでの全長 800 メートルの間に、地元出身の漫画家、水木しげるが描く妖怪の世界観をテーマとしている。

地方都市共通の課題である「シャッター商店街」の解消、再生を目的としてスタート。

・「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクターを中心に、日本各地の妖怪をモチーフとした銅像が 100 体以上設置され、年間 200 万人に近い入込客数を誇る。

・累計入込客数：（1993 年～2024 年 10 月 30 日）4,499 万 546 人

#### (2) 取組

・平成元年から始まった「緑と文化のまちづくり」をテーマに、JR 境港駅から商店街を結ぶ目

抜き通りに、境港市出身漫画家、水木しげる氏が描く漫画に登場する妖怪のオブジェ、モニュメント、絵タイルを歩道に設置し、市民に歩いていただく目的であったが、メディアに取り上げられてから多くの観光客が訪れる名所になった。

### (3) 経過

- ・一部完成（平成5年7月）から20年が経過した平成26年3月に、にぎわいの継続を目的として、リニューアル事業実施に向けた基本構想を策定し、平成27年度に実施設計、平成28年度から工事着工し、平成30年夏にリニューアルオープンした。

### (4) 特徴

- ・妖怪を題材としたユニーク性と歴史性があり、彫刻と黒御影石の台座が一体化して新しい町並みを形成している。
- ・堅苦しい彫刻ではなく、誰でもが触れて親しめるもの

### (5) 初期（平成4年度～平成8年度）整備事業の概要

- ・総事業費：4億4,000万円（内訳：市債3億1,200万円（自治省商店街等振興整備特別事業）、宝くじ助成金3,400万円、一般財源6,400万円）
- ・整備内容：総延長・800メートル（境港市大正町、松ヶ枝町、本町）  
妖怪オブジェ・82体（平成8年8月完成時）、妖怪レリーフ・5基、総タイル・8枚  
アーケード改装・延長550メートル、公衆トイレ、ポケットパーク、大正川橋整備

### (6) 中期（平成9年度以降）整備事業

- ・平成20年：「河童の泉」設置  
（総事業費：2,300万円（宝くじ助成金2,100万円、水木しげる基金200万円））
- ・平成21年：「水木しげる氏・顕彰像」設置  
（境港市総務課事業：300万円）
- ・平成24年：水木しげる記念館中庭に「鬼太郎の家」設置  
（482万5,000円）
- ・平成26年：妖怪お休み処（着ぐるみ待機所・撮影スポット）「砂かけ屋」設置  
（196万9,000千円）
- ・平成26年：スマホ用アプリケーション（スタンプラリー）制作（791万1,000円）
- ・平成26年：市民バス新車を1台購入しての鬼太郎ファミリーラッピング  
（製作費：89万7,000円）
- ・平成27年：5か所にWi-Fiスポット整備（577万8,000円）
- ・平成28年：記念館前、河童の泉に夜間照明設置（339万9,000円）
- ・平成28年：既存市民バス2台にフルラッピング（226万8,000円）



- ・平成 29 年：フルラッピング及び社内装飾（324 万円）
- ・平成 30 年：水木しげるロード・リニューアルオープン（総事業費：13 億円（市道：10 億 8,000 万円、国費：4 億 1,800 万円、一般財源：6 億 6,200 万、県道：2 億 2,000 万円））

### （7）経済波及効果

平成 21 年（150 万人・130 億円）、平成 30 年（270 万人・270 億円）

→シャッター商店街が、観光客対応店舗に変化（中国地方有数の観光地と進化した）

## 3 水木しげる記念館

### （1）概要

- ・水木しげる氏の人と作品世界、氏が世界中から集めた妖怪に関するコレクションなど、貴重な品々を中心に、館独自の制作したオブジェ等を多数展示し、氏の創出した独創的かつ多様な作品の世界、哲学や精神の表れである「妖怪」の世界を、展示や映像で紹介する、水木しげるロード関連事業の集大成である。

### （2）オープン

- ・（旧記念館）：平成 15 年 3 月 8 日（平成 24 年 3 月 8 日 展示リニューアル）  
延床面積：1,141 平方メートル
- ・（新記念館）：令和 6 年 4 月 20 日                      \*鉄骨造・2 階建て  
延床面積：1,688.96 平方メートル（敷地面積：1,842.06 平方メートル）  
事業費：約 9 億 7,000 万円

### （3）開館時間・休館日

- ・開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（毎週土曜日及びお盆休み午後 8 時まで開館）
- ・休館日：年中無休

### （4）入館料

- ・前売券・団体：一般（900 円） 中学・高校生（400 円） 小学生（200 円）  
障がい者及び介護者（200 円）
- ・個人                      : 上記料金に 100 円プラス                      （未就学児は無料）
- ・音声ガイド（無料）：日本語、英語、韓国語、中国語

### （5）運営方法

- ・「境港市」が市債や交付金等の活用によって資金調達し、「水木しげる記念館管理運営共同事業体」が施設のコンセプト提案から建設、管理運営業務を行う「DBO（公設民営）方式」を取っている。
- ・市が負担した実際の建設費（約 7 億円）と利息を、運営共同体が 20 年間で市に返済していく、

言わば家賃のような形を取り、あくまでも市の所有物であることは変わらない。

→運営共同体は、20年間お客様に来ていただく努力を継続していく

- ・施設運営は、施設の収益によって賄われるものとし、指定管理料は支払われない。

→損益分岐は、年間19万人～22万人とのこと

#### (6) 運営体制

- ・指定管理者：一般社団法人「水木しげる記念館管理運営共同事業体」

代表理事：原口智裕（株）水木プロダクション

理事：高橋博之（株）ソニー・クリエイティブ・プロダクツ

理事：中山三善（中山マネージメント（株））

#### 4 所見

水木しげるロード、水木しげる記念館を中心とした、境港市の観光政策について、情報として受けたことはあるが、今回実際の姿を見せていただき、携わっている方の生の言葉をお聞きすることができた。

まずは境港市出身の水木しげる氏への大きなリスペクトが、お会いした方の全てから感じることができた。その底流がなければ、ここまでこだわり、市を挙げて、また民間企業の協力を最大限に受けながらの展開はできないものとする。

本市も、自称マンガ王国を名乗っているが、残念ながら現在は十分に生かしていない状況である。新潟市出身の漫画家の皆さん

へのリスペクトはどうなのだろうか。本当に生かす気があるのか。私たちの意識もそうであるが、一から考え方を変えなければ実現はできない。

現在中途半端になっている、この課題について、頭で考えるだけではなく、実際のつながりを改めて持つところ、本市との人間関係を再度構築するところから始める必要がある。

日本が世界に誇る文化、財産であるマンガ・アニメを生かさない手はない。本市には、他市との差別化が明確にできる、アニメを中心とした学びの場、大学や数多くの専門学校があり、アニメ情報施設がある。しかしながら、このコンテンツとインフラがばらばらで、相乗効果を発揮できていない。この原因は、今回の現地視察で大きく感じた、作家さんへのリスペクトが最大のものであるように感じる。ここに一本筋が通っていないから、求心力にならないのではないだろうか。

施設建設、管理運営方法も、DBO（公設民営）方式を採用した新しい取組を行っている。事業のスタートはもちろん、継続的な運営を長く行っていく方式であり、本市の今後の再生のためにも、重要な施策として、さらに研究・調査・実行しなければならない。

本市にも、境港商店街と同じシャッター街となっている箇所は多く、その象徴的な存在、「西堀ローサ」がある。残念ながら商店街としての役目は一旦休止となる予定であるが、まさに先人に整備いただいた本市の財産である。地上の古町商店街・本町商店街と、オールウェザー・インフラが近隣にある。あとは、知恵の出し合いと、何よりも官民一体となった本気度が具現化の分水嶺になる。いま



一度、本市の重要な資産を本気になって活用することを、今回の視察で痛感させられた。最重要政策であるにいがた2kmの活性化の大きな武器とし、活用できると確信した。

## ○事業内容と広域観光に対する取組について【山陰観光連盟（鳥取県米子市）】



### 1 市政概要

人口 14万5,004人（2024年1月現在推計） 面積 132.42平方メートル

### 2 視察概要

#### （1）事業内容について

山陰観光連盟は昭和37年3月1日に設立した。事務局はJR西日本山陰営業部（旧米子支社内営業課）に置く。事業目的としては、JR西日本山陰営業部及び鳥取、島根両県下の観光関係機関及び団体等が一体となって観光事業の発展を図るとともに観光客を誘致することを目的とする。事業概要としては、①観光観念の高揚、②観光客誘致のための積極的宣伝、③観光施設の整備改善の促進、④観光客接遇の向上、⑤観光事業に関する調査研究と観光情報の収集連絡、⑥山陰路観光キャンペーン推進協議会の事業目的の継承（2009年度より）、⑦その他本会の目的達成に必要な事業を掲げ、様々な観光戦略を行ってきた。

#### （2）自治体との連携とそれぞれの役割について

会員は、西日本旅客鉄道（株）山陰支社・鳥取県・島根県・各市町村・旅行会社・バス会社・旅館組合観光協会等（2024年度 会員数59（特別会員：7会員・一般会員：53会員））おり、組織配置としては、会長にJR山陰支社長、副会長に鳥取県観光連盟会長と松江市長の2名、理事には21名、幹事には、鳥取・島根両県観光担当課長及びJR西日本山陰営業部長、監事には大山町長・安来市長の2名にそれぞれの役職についている。

#### （3）設立後の観光面における効果と今後について

列車を活用した様々な山陰宿泊キャンペーン等の実施を行っている。内容については、守秘義務とされているので詳しくは触れないが、列車と観光地と宿泊施設をセット販売することで、シーズンごとの観光戦略として人の流れを生み出していることが伺える。また、新たにSNSなどを駆使して

観光戦略をより多くのユーザーに旅のプランを進めることで、各エリアに人の流れを誘致し、より広いエリアを回遊していただく取組を展開していることが感じられた。また、様々な情報発信をすることで1度だけでなくリピーター獲得にもつなげていることが伺える。

### 3 所見

本市において、観光は非常に大事な戦略の一つであり、新潟駅連続立体交差事業を含む、駅のリニューアルやいがた2 kmなど経済の好循環を生み出す、開発やエリア戦略を行っているが、現状外国人観光客、いわゆるインバウンド客をつかみ切れていないと考える。事実、他自治体ではオーバーツーリズムとなっている観光都市が多く点在しており、本市においては富山市や仙台市にも観光においては大きく差をつけられてきているように感じる。今後は原点に戻り、山陰観光連盟のように民間組織が自ら稼ぐ仕組みをつくるような組織展開が必要ではと考える。今回の行政視察で得られた、知識や経験を今後の市政に大いに生かしていきたいと考える。

## ○鳥取砂丘の観光面における取組と今後の課題について【山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター（鳥取市）】



#### 1 概要

2018年10月に開館した山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターを訪ね、観光面における取組や民間事業者との連携、今後の課題等について伺った。

山陰海岸国立公園に指定されている鳥取砂丘は、国の天然記念物また特別保護地区に定められており、山陰海岸ジオパークを代表するジオサイトの一つであり、年間100万人が訪れる県内随一の観光地となっている。1963年、国立公園に昇格し、天然記念物の一部が特別保護地区に指定されている。

#### 2 鳥取砂丘ビジターセンターの管理運営体制について

環境省、鳥取県、鳥取市によりビジターセンター管理運営協議会を設置し、運営を行っている。それぞれが負担金を支出している。

### 3 協議会の体制

運営面の体制は以下のとおりである。

会 長：鳥取市経済観光部長

副会長：鳥取県生活環境部長

幹事長：鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課

幹 事：環境省近畿地方環境事務所長

参 与：一般財団法人自然公園財団鳥取支部所長

管理運営の統括、予算、決算、事業計画、内容の承認を行っている。

### 4 協議会事務局

実務面を担う事務局の体制は以下である。

館 長：鳥取市職員

副館長：鳥取県職員

事務職員、ガイド職員、臨時職員（ガイド）、臨時職員（夏季救急対応）

管理運営の予算管理、決算書案の作成、事業計画の立案、運營業務、外部委託業務の発注、関係団体等との連携を行っている。通常は8名体制だが、夏季のピーク時には14名体制となる。

### 5 鳥取砂丘ビジターセンターの役割

鳥取砂丘のワンストップサービスを目的として各種事業に取り組んでいる。

- ・インフォメーション（お困りごと、観光案内、救急対応、撮影の届出窓口）
- ・学習支援（教育団体に対して無償で体験学習にかかる人手や施設貸出を実施）
- ・情報発信（SNSやホームページを含め、各方面の掲載依頼に対応）
- ・普及啓発活動（様々なイベントで砂丘を官民一体となって盛り立てる）

鳥取砂丘周辺における各施設・団体は以下のとおりである。

#### （ア）鳥取大学乾燥地研究センター

砂漠化や干ばつ、及び乾燥地について研究する施設。1990年に全国共同利用施設として設立された日本唯一の研究拠点機関。乾燥地の問題に組織的に取り組んでいる。鳥取大学農学部附属砂丘利用研究施設が前身であった。

#### （イ）鳥取砂丘アクティビティ協会

2017年4月設立。鳥取砂丘及び鳥取県東部エリアの11事業者で構成。東部エリア全体での連携により、事業者自体では難しい課題を協会としてまとめる事で各事業者の負担を減らしている。安全講習会の共同開催。事業者同士の改善提案によるブラッシュアップ。事業者同士の体験メニューの組合せによる商品開発。悪天候時の相互送客。教育旅行受入れ時の窓口一本化。共同PRによる広告宣伝費の削減。発信力や信用度の向上などに取り組んでいる。

現在、鳥取砂丘で提供されているアクティビティは以下である。

(ア) 砂丘のアクティビティー

ヨガ・サンドボード・パラグライダー・セグウェイ・ファットバイク・らくだライド・ガイドツアー・トレッキング

(イ) 海のアクティビティー

シュノーケリング・ダイビング・カヤック・SUP・サーフィン・ウインドサーフィン・海上タクシー・遊覧船

(ウ) 池のアクティビティー

カヤック・SUP・SUPヨガ

・ビジターセンターと鳥取砂丘アクティビティー協会の連携について

・インバウンド誘客事業

海外の旅行博や商談会への参加、プロモーションの実施

・受入環境の構築

冬季の閑散期や荒天時に楽しめる新規コンテンツの検討

多言語対応可能なアクティビティー利用促進人材の育成・確保

多言語ガイド支援ツールの作成

2023年度からはコロナ禍で中断していた外国人観光客向けの関西-鳥取間格安高速バス、周遊タクシーの運行を再開した。

・ビジターセンターの入館者数

2018年度：9万7,331人（10月開館）

2019年度：28万1,097人

2020年度：14万3,185人

2021年度：14万6,354人

2022年度：23万7,798人

2023年度：32万3,928人

2024年度：24万1,000人（10月集計）



・教育プログラムの受入数の推移

2018年度：1,726人

2019年度：6,371人

2020年度：3,672人

2021年度：6,670人

2022年度：6,743人

2023年度：7,042人

2024年度：5,159人（10/31時点）



教育、一般、行政、個人などを合わせたコロナ禍においては修学旅行の行き先で県内を選ぶ傾向が強まり来訪者の増加につながった。その後も荒天時でも利用できること、プログラムは全て無料であることなどから徐々に浸透してきている。

## 6 所見

年間 100 万人が訪れる鳥取砂丘。鳥取を代表する観光地で国と県、市が協働してワンストップ窓口を設置運営している取組を伺った。また周囲には様々な体験アクティビティを展開する民間事業者がおり、そうした事業者とも協働して砂丘を観光資源、教育資源として利活用を進めていた。

行政が主導して世界的な高級ホテルであるマリオットインターナショナルの「ラグジュアリーコレクション」の誘致が決定したという。鳥取砂丘はかねてより宿泊施設が限られており、ほとんどが日帰り客であった。誘致後は、宿泊を通じて鳥取砂丘の自然やアクティビティをさらに楽しんでもらい、インバウンド客をはじめとした富裕層の消費単価を上げることにつながると考えられる。

本市においては鳥屋野潟、福島潟、佐潟といった代表的な潟がある。鳥屋野潟周辺は都市と隣接している環境にスポーツ施設が点在している。福島潟は水の駅ビュー福島潟を中心に自然環境の保護、啓発が行われている。佐潟においては佐潟・水鳥湿地センターにおいて啓発や教育活動などが行われている。

本市は、鳥取砂丘と比べると様々な体験アクティビティや修学旅行の受入れ、インバウンド需要の取り込みについてはまだまだ取り組むべき課題が多くあるように感じた。

さらにはホテルや民間事業者の開発誘致を行うなど、自然環境の保護、啓発を図るとともに積極的な利活用を進めるべきだと考える。

ラムサール条約湿地自治体認証を受けた都市として、さらなるワイズユースが進むよう提言につなげていきたい。